

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500012		
法人名	認定特定非営利活動法人 まごころネットワーク		
事業所名	おおたかの森グループホーム あぜみち		
所在地	流山市大畔534番地		
自己評価作成日	平成29年2月6日	評価結果市町村受理日	平成29年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成29年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・同敷地内の同法人別事業所や地域の教育施設との交流を行い、ご利用者の多様な活動を図っている。 ・同敷地内に菜園、敷地外に広がる農道、畑、林など自然に触れる機会に恵まれている。 ・四季折々の催し物や、季節に応じた外出支援で単調な毎日にならないように配慮している。 ・地域の社会資源の一つであるボランティア、近隣住民の方との交流を積極的に取り入れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者を中心に、居心地のいい空間作りにも努め、日々の支援でも、利用者の些細なしぐさ、会話、表情等から、意向を細かく把握するようにしている。年末年始で自宅に帰った利用者から、「疲れたから、早くホームに戻りたい」と言われた家族もいる。利用者家族アンケートでも、本人がゆったりと生活できている、安心できる等と評価されている。同じ建物内のデイサービスとは合同のイベントや日常的な交流が行われ、生活の活性化につながっている。また、中学生の職場体験や実習生の受け入れを行い、地域の学校との連携も図っている。近くの保育園での月見会に招待されたり、園児が遊びに来たりと、保育園児との交流も広がっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”笑顔で明るくオープンに”というグループホームとしての理念を掲げ、居心地のいい空間作り、外部との交流による風通しのよい生活空間作りに努めている。	理念は、ホーム開設時に全職員で考えて作ったもので、職員間で申し送り時や定例会で確認しあいながら実践につなげている。利用者のゆったりと安心した表情からも、実践していることが窺われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動の定期的な清掃行事やゴミゼロ運動に参加。地元農家のふれあい市場に出掛けたり、地域の支援サポーター、ボランティアさんとの交流も積極的に取り入れている。	地域との交流を大切にしており、自治会にはホーム開設時から加入、清掃活動等の地域の行事に利用者も一緒に参加している。また、ホームの秋祭りには地域の方を招待し、昨年は自治会長をはじめ、10名の参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、ご相談に来られたご家族にホームの説明をし、必要に応じてアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	それぞれのお立場からの貴重なご意見をいただき反省材料、今後の課題として取り組んでいくようにしている。	併設の小規模多機能型事業所ほのぼの館と合同で2か月毎に開催している。家族、自治会長、民生委員、市担当職員、地域包括職員と参加者も多い。活動状況等報告後、参加者からコメント、アドバイス、要望等が出され、それらをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や消防訓練にも市の担当職員の方に来ていただき、アドバイスをいただいている。3か月ごとのグループホーム連絡部会でも市の担当の方に参加していただいている。	市担当者とは運営推進会議、グループホーム連絡会等で、ホームの現状報告を行い、それに対するアドバイス等を受け、連携を図っている。地域包括職員には、困難事例の解決方法などの相談にのってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声かけひとつでも自由を制限することにつながると心得、全職員で意識的に取り組んでいる。言葉の暴力も含めミーティング等で話し合い、徹底している。	定例会では毎回具体的な事例をあげて検討しており、職員は拘束の弊害を理解して、拘束のない支援に努めている。グループホームは2階にあるが、出入り口は施錠せず、自由に1階のデイサービスと行き来できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について職員と共同に話し合い、また、それと同時に虐待に向かわないよう職員のストレス管理にも気をつけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている入居者の方がおられ、学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、随時疑問点には説明を付け加え理解をはかっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を呼びかけ、また、受診時・面会時を利用して、家族からの意見・要望をお伺いしている。	面会時や運営推進会議に家族の参加が多いので、その際に意見・要望を聞いている。来られた時に意見が出しやすいよう、普段の生活状況がわかる写真満載のホーム通信「あぜみち」を送付している。出された意見は申し送りノートに記入して共有し、対応している。	家族アンケートでは、報告がないと感じている家族もいる。特に来訪の少ない家族に対しては、「あぜみち」の送付に加えて、電話・メールなどを活用した報告の工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月例ミーティングで意見提案を出せる他、気付いた時点で話し合い、反映させられるようにしている。	管理者は風通しの良い職場環境づくりに努めていて、意見、要望は出しやすい雰囲気である。年1回の理事長面接、職員アンケート調査等意見を出せる機会も多くある。出された意見は検討され、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に給与の見直しをし、役割分担で仕事を任せることにより、やりがいに通じる職場環境に気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の個性や適性を考慮して、職員一人ひとりに合った研修を勧め、また法人内の研修を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の定期的な連絡部会で情報交換の場とし、市への働きかけ等協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から発せられる言葉、表情、しぐさをよく観察し、記録していき本人の困っている状況の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が同席をしていない所で時間をかけて傾聴し、ご家族の心の安定にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも含めたベストな方法を探るためいろいろアドバイスもさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の清掃、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理、配膳等に協力していただき、助け合う関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊などで家族の協力を得ながら本人を共に支えていく連携づくりを実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週2回の食材購入でスーパーへ行く時に同行していただいたり、定期的な自宅外泊やなじみの出張美容室、傾聴ボランティアさんによる支援が行われている。	入居歴が長い方が多く、子や孫など家族の訪問が多くみられる。行きつけの美容室の出張サービスで好みのカット等を継続される方もいる。地元農家のふれあい市場や、近くの神社のお参りや清掃活動に出かけるなど、馴染みの場とのつながりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がうまくパイプ役となり、利用者同士の関わり合いが円滑に行くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後でも、訪ねて来てくださるご家族様もあり、相談しやすい、訪問しやすい環境に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活動作、会話、表情などから気づきを職員間で申し送り、記録に落としカンファレンスで話し合い、統一したケアに努めている。	日常のコミュニケーションや対応の中から、思いや意向の把握に努めている。意向表出の困難な方には表情・仕草等から推測し、気づきを申し送り職員間で共有し、介護記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの言葉や、ご家族からの情報、以前のケアマネージャーからの情報等によりおおむね把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個々の介護記録から読み取ったり、申し送りノートを活用して職員間で共有、把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が意欲をなくさず、少しでも快適に過ごせるように日頃から本人、家族、関係者と話し合い、希望や意見を大切にしながら現状に即した介護計画作りに努めている。	自立支援の理念を基に、申し送りノートや定例会で職員が意見を出し合い、介護計画を作成している。何でもすぐに職員が手を出すのではなく、多少時間がかかっても本人の力と意欲を引き出す支援に努めている。モニタリングは有効期間に合わせて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、個別介護記録、口頭での申し送りにより情報を共有し実践に役立たせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	機能訓練や出張による理美容、また、訪問歯科、訪問診療等を個別に受け入れる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアグループや介護支援サポーターを受け入れ、積極的に地元の行事にも参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が定期受診に付き添われるが、必要に応じて職員が対応したり、同行し看護師の所見も含め医師に説明をしている。訪問診療医の協力も得ている。	各々が入居前からのかかりつけ医を継続し、通院は家族対応を基本としており、必要に応じて職員が通院支援をしている。また訪問歯科を利用の方もいる。法人の看護師が本部に常駐しており、緊急時対応が出来、利用者に安心感を与えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に気づきから得られた情報を元にアドバイスしてもらったり、実際処置もしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院には速やかに情報を伝え、治療の役に立つように努め、相談、連絡も必要に応じて、すぐ対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療と連携で事業所で出来ることを十分お話しした上で、終末期の看取り支援が出来るか、段階を追ってご説明するようにしている。	入居時に、重度化した場合の事業所方針を話している。重度化の早い段階から順を追って医師が本人・家族に説明をしている。胃瘻等の特別の医療行為が発生しなければ家族の希望と協力のもと、医師・看護師・職員がチームで支援に取り組む体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、急変時の対応マニュアルは目につくところに掲示し、全職員に周知させ、ミーティング等でも話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回行われる消防訓練を通して利用者の状況に応じた避難方法は学んでいる。また、推進運営会議や消防訓練時に市の担当職員や地域の方々にも来ていただき、よりよい避難方法を話し合っている。	市の担当者や自治会長の参加を得て、1階のデイサービスと合同で年2回避難訓練を実施した。夜間想定では職員一人で利用者を如何に安全に避難させるか等を学んでいる。水、食料、発電機など備蓄品の充実に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関する誘導の声かけに始まり、入浴時にもプライバシーを考慮して、声掛けには特に気を使って行うようにしている。	苗字での呼び方を基本に、話し掛ける時には友達言葉は慎むなど節度を持った対応に努めている。排泄や入浴介助時には羞恥心に配慮した言葉掛けや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の機会を大切にできるよう小さなことも意思を伺う場面を多く取り入れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先したかかわりになっていないか見直し、本人のペースを大切にするかかわりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の話題に花を咲かせたり、鏡を見ながら髪をとかししたり、アクセサリーや小物でおしゃれしてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、調理、洗い物の手伝いをしていただいたり、テーブル拭き、おしぼりの準備、お茶の準備等食事前の作業を手伝っていただき、食事が楽しみとなるような流れを作っていくようにしている。	出来る方は、テーブル拭きや下膳・片付け・洗い物など職員と一緒にしている。行事食や誕生会、おやつ作り、餅つきなど、見ても食べても楽しい食事支援が実践されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下能力を見ながら食事の形態、量を考え、捕食したり水分摂取にも気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎食後全員に声をかけやっていたりしている。就寝前は義歯洗浄剤を使用。口腔内清拭も含め念入りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンや習慣に合わせて声かけ誘導するようにしている。トイレでの排泄が多くなるようチェック表を参考にして、自立にむけて支援している。	排泄パターンを把握し、声掛け誘導しトイレでの排泄を支援している。夜間帯には、声掛け・トイレ誘導・朝まで入眠の方など個々の状態に合わせた支援をしている。足踏みやスクワット、テレビ体操など普段から継続的に運動を行って、下肢筋力の低下防止に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をチェックし、乳酸菌飲料も常時摂取していただき、便通を促す運動や食物を意識的に取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決められた入浴日、時間にこだわらず、個々の事情を考慮して個別に支援している。	一日2~3人を目安に、ひとり週2回の入浴支援をしている。希望により一日おきの方もいる。最近では浴槽を跨ぐことが難しくなって来た方もあり、職員間で工夫し合い、対応方法をミーティング等で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況に応じて、昼間でもお疲れのご様子があれば声をかけ、1時間以内で居室ベッドやフロアのソファで横になってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬実行のチェックをし、忘れないように努めている。薬の注意書きは頭に入れておき体調変化に気づけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、台所の洗い物、洗濯物たたみ、洗濯物干し等の家事はできる、できないに関わらず、一緒に行おうと声をかけて行えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は中庭へ出たり、近所を散歩したり、ドライブに出かけるようにしている。食材購入のためのスーパーへも外出している。家族が外食へ誘って出掛けられることもある。	天気の良いときは庭に出て菜園の野菜や花を見たり、ホームの周りの農道を散歩している。菜の花や桜見物などドライブを兼ねて車で出掛けている。また、食材購入時には利用者も一緒にスーパーに出かけることもあり、なるべく外出できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今後家族の協力も得ながら希望が強い場合は、買い物等で使えるように支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族にはこちらから電話を掛け、本人と話をしてもらったり、家族から電話があれば本人に出てもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ティーラウンジが隠れ家的な落ち着いた空間になっており、フロアも心地良いBGMを流したり、製作物や写真を展示して、いつでも楽しめ、くつろげる空間になるようにしている。	玄関、廊下、居間等の共用の空間は、清潔に掃除されている。居間には利用者の共同作品等が多数展示され、また、一角はティーラウンジコーナーとして、気の合った同士でお茶やコーヒーなど楽しめる寛ぎの空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのメインテーブルはそれぞれに気に入った席が決まっており、奥に広がるティーラウンジも一人になりたい時や、家族との面会に利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具、装飾品、ぬいぐるみ、仏壇等自由に持ちこんでいただいている。また、利用者同士でお互いの居室を訪問し合い会話が弾むきっかけにもなっている。	使い慣れた家具や生活用品、ぬいぐるみ等を持ち込み、好みに配置している。自身の作品や家族の写真等部屋いっぱい飾る方、また仏壇を持ちこむ方など其々の個性が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室ドアに名札を貼ったり、照明のスイッチ等もわかりやすく表示している。		